

風に吹かれて

ホームページに時々エッセイ風の文を掲載していこうという気になった。

そんなときに頭に浮かんだのが「風に吹かれて」だ。ボブ・ディランが一九六三年に発表したフォークソングの名曲で、ピーター、ポール&マリーもこの曲をカバーした。

「どれだけ飛べば白い鳩は砂浜で休めるのだろう、どれだけ飛び交えば爆弾は永遠になくなるのだろう、どれだけ年月がたてば人々は自由になれるのだろう、どれだけの間見えないふりをするのだろう、どれだけの人泣く声を聞けばいいのだろう、どれだけ死があればもうたくさんだと分かるのだろう」。

そんな問いかけのあとに、*“The answer my friend is blowin’ in the wind. The answer is blowin’ in the wind.”*「友よ、答なんて分からないよ、吹いている風の中さ」と繰り返される曲である。

この曲が発表されて五〇年以上が経つが、この間に世界中で数限りなく行われ、現在も続いている争いや殺し合いを見ると、ボブ・ディランの言葉 *“The answer is blowin’ in the wind.”* には、はるか五〇年以上先の時代までを見通していたのか、そんな説得力を感じる。

ピーター、ポール&マリーは心にしみる美しい歌声とハーモニー、繊細なピッキング奏法のギターで感動的にこの曲を演奏した。

ボブ・ディランは、飾り気のないボサボサの髪型と一見ぶっきらぼうな歌とハーモニカ、そして、かき鳴らすようにストロークで弾くギターでこの曲を演奏した。いまその映像を目にすると、昔のモノクロの映像ではあるが、風貌、歌、メッセージのすべてに時代を超越した新鮮さを感じる。

日々のことの中から、また、かつて経験したたくさんの中から、ボブ・ディランの「風に吹かれて」のようにさりげなく、飾り気はないけれど新鮮さと説得力を感じてもらえるような、そんなことを時々書いて掲載したいと思う。